

龍谷大学 校友会 会報



〔校友総数 215,000名〕
 2024(令和6)年3月15日
 第98号
 発行=龍谷大学校友会
 編集=校友会広報部
<https://www.ryukoku.ac.jp>
 京都市伏見区深草塚本町 67
 龍谷大学内
 校友会事務局
 TEL075-645-2015 FAX075-645-2017

龍谷賞受賞者、校友会の事業報告、校友最前線、校友短信…2面
 経営者登場、Who's who…3面
 入澤学長「問はず語り」、海外で活躍する校友…4面
 特集「3年前の約束」、煩惱とクリエイティブ…5面
 学部同窓会、サークル、OBOG会の活動…6面
 支部の活動、コラム、校友の著書…7面
 仏教に学ぶ、校友のお店…8面

Ryukoku Univ. Alumni News No.98

震災のお見舞い
 校友会会長 赤松徹真

新年早々に起こった能登半島大地震に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

震災から2か月が経とうとしています。余儀なくされたり、先行きが見通せない生活は、想像を絶する厳しいものであられることを切に感じております。

国を挙げて支援が進められ、何とか一刻も早く日常を取り戻せるように願うばかりです。

余寒厳しき折、くれぐれもご自愛ください、お互いに助け合いたい、この難局を乗り越えていただきたいと願うばかりです。

校友会といたしまして皆様から寄り添う活動を、ささやかながら進めてまいりたいと存じます。

二〇二四(令和六)年二月

■校友会事務局からのお願い■

校友会では、被災された卒業生の皆様の現状を把握し、ささやかながらお見舞いの気持ちを届けさせていただきたいと考えております。

ご不自由な状況の中、恐縮ではございますが、こちらのQRコードで簡単なアンケートにご回答いただければと思います。現状をきちんと把握した上で、皆様に寄り添える校友会活動を続けてまいりたいと考えております。

皆様の中には、日常生活に戻るまでに時間を要する地域にお住まいの方もおられることと存じます。ご不自由な状況かと存じますが、皆様とご家族のご無事を念じております。



京都市支部&龍Ron小町 設立10周年記念

3年前の約束

2019年度(2020年3月)卒業生・修了生対象
「卒業式・修了式」「校友会新入会員歓迎祝賀会」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い延期となっていた19年度(2020年3月)卒業生・修了生対象の「卒業式・修了式」および「校友会新入会員歓迎祝賀会」を、23年10月15日と24年1月27日の2日、大阪市内で開催しました。

卒業式・修了式の延期を伝える際、入澤学長と赤松会長が「必ず集まれる場を設ける」と約束されたことを受けてようやく開催することができました。

卒業式・修了式では「音楽法要」および「学位記、卒業証書・学位記授与」の後、入澤学長から「3年半たちましたが、あえて言わせてください。ご卒業・ご修了おめでとうございます」とのお祝いの気持ちが述べられました。

また、赤松会長が祝賀会

で「龍谷大学は一般的にまじめで慎重と言われていますが、ここぞという時に意外に大胆な決断をする大学なのです」と挨拶されると、参加者からは大きな歓声と拍手が起りました。

参加した卒業生・修了生は久しぶりに会った恩師や友人と歓談するなど、会場には参加者の笑顔があふれていました。歓談の後には、会場側が用意した特別なイベントが行われ、参加者も歌って踊ってお祝い盛り上がりの中で祝賀会は終了しました。

式典・祝賀会の前後には、恩師や友人と会場内で行われているイベントに参加してさらに楽しい時間を過ごすなど、参加者にとって特別な1日になりました。



と国宝の数々を巡る約1時間のツアーを西本願寺の職員の方々にじっくりご案内いただき、その巧みな案内話術に感動しきり、「こんなにいろいろなことを丁寧に教えていただき、龍谷大学の卒業生で本当によかったです」という声があちらこちらから聞かれました。

10月7日、京都市支部と龍Ron小町の設立10周年記念合同事業が開催されました。京都市支部と龍Ron小町の連携事業ということで、大学、校友会からの協力もあり、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の見学、龍谷ミュージアムの解説、鑑賞を楽しむことができました。

龍Ron小町の総会では、法会館にて4年ぶりの対面開催。海外をはじめ、国内各地から集まった30名の参加者が受付で再会を喜び合う様子や、かけあう言葉には懐かしさと温

かさがあふれていました。総会では奈良県支部より、「支部設立20周年記念事業」への龍Ron小町の関わりについて、ハワイ支部より、コロナ禍でZoomを効果的に利用しながら懇親を深めていったことなどが報告されました。

龍Ron小町の松田会長からの「支部が元気であれば、龍谷大学校友会はますます発展する」との言葉かけは、参加者それぞれが支部に戻り、楽しみながら支部での活動に取り組んでいきたいという新たな意気込みにつな

午後からは、同じく設立10周年を迎える京都市支部との合同開催事業。龍谷ミュージアム学芸員の村松加奈子先生より、龍谷ミュージアムで開催されていた特別展『みちのくいとしい仏たち』—ユーモア溢れる民間仏にフォーカスした展覧会—の意図や見どころを解説いただき、一般参加の方々も含め約100名の方々が熱心に聴講されました。

その後、一同は浄土真宗本願寺派(西本願寺)へ。阿弥陀堂での団体参拝の後、書院と飛雲閣、唐門



龍谷ミュージアム

文明の十字路・パーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰—ガンダーラから日本へ—

アフガニスタンのパーミヤン遺跡はユーラシア各地の文化が行き交った、文明の十字路とも呼ばれる地域です。2001年にイスラム原理主義組織・タリバンによって爆破されてしまいましたが、ここには多くの石窟と2体の大仏が彫られ、大仏の周囲には、「太陽神」や「弥勒」のすがたで表現されていました。本展では、この失われた壁画の新たな描き起こし図や、弥勒信仰がアジアに広がる様子を多くの仏教美術から紹介します。

重要文化財 弥勒菩薩半珈像 (大阪・野中寺)

- ◆会期: 2024年4月20日(土)~6月16日(日)
- ◆休館日: 月曜日(ただし、4月29日、5月6日は開館) 4月30日(火)、5月7日(火)
- ◆開館時間: 10時~17時 ※最終入館受付は閉館30分前まで
- ◆入館料: 一般 1,600円
- ◆問い合わせ: 龍谷大学 龍谷ミュージアム TEL: 075-351-2500 <https://museum.ryukoku.ac.jp/>



2024年度校友会の主な事業予定

6月8日(土)	校友総会(深草キャンパス)
10月6日(日)	校友音楽祭(深草キャンパス 成就館)
10月26日(土)	ホームカミングデー(瀬田キャンパス)
11月3日(日)	ホームカミングデー(深草キャンパス)
11月3日(日)	龍谷賞贈呈式(深草キャンパス)
12月21日(土)	全国校友大会 in 静岡(ホテルアソシア静岡)

~詳細は校友会 HP、LINE、SNS で~
 ※LINE 登録をお願いします。

校友会 HP

龍谷大学校友会 公式SNS

SNSを通じて色々な情報を発信していきますので、是非ご登録をお願いします。

Facebook Instagram X (旧Twitter) LINE

龍谷ミュージアム 無料で優待券
 期日: 2024年6月16日(日)まで
 (同伴者1名を含め 無料でご入館いただけます)



全国支部長会

4年ぶりに対面開催


11月3日、深草キャンパスで4年ぶりに対面で開催しました。海外は、南北カリフォルニア支部それぞれから4名、日本全国から総勢42支部、67名が集合。久々の再会を喜び、深草キャンパスの進化に驚くところからスタートしました。

龍谷大学心の講座

～10年の区切りのご報告～

14年度から「龍谷大学響都ホール校友会館」で始まった「龍谷大学心の講座」は、10月21日に10年間の区切りとして開催しました。ゲストは弁護士の竹下義樹さん(75年法卒、つくし法律事務所所長)と俳優の柄本明さん。最終回にふさわしく、竹下先生の力あふれるお話と、柄本さん独特の役者論に、会場全体が引き込まれました。

この10年間で開催された「龍谷大学心の講座」は、京都開催：54回、地域開催：23回、参加者数は2万人を超える校友会の一大事業となりました。



福祉や音楽療法の分野において半世紀以上に渡って活躍され、特にミュージック・ケア(音楽療法)では、そのノウハウを体系化し、研修システムを構築されてきました。福祉や医療・教育の現場で対人支援を行い、海外でも人材を育成するなど、国際的にも活躍さ



宮本 啓子さん (68年短期大学卒)

龍谷賞

第34回 龍谷賞受賞者

社会に貢献し、顕著な業績をあげた校友会員(卒業生)に対し、「龍谷賞」「龍谷奨励賞」と、校友会員に限定せずに顕著な活動をされた方へ「龍谷特別賞」を贈っています。

NPO法人日本ミュージック・ケア協会理事長

れ、さらに、「加賀橋立北前船」の歴史の保存と活用にも長年に渡り取り組まれています。

龍谷奨励賞

音楽家



西田 彩さん (92年経済卒)

音楽活動の他、LGB TQとりわけトランスジェンダーの人権に関する発信を積極的におこなっており、各大学や地方自治体での講演などで多くの学生や家族からの相談者としても活躍さ

校友音楽祭

思い出の写真パネル展も好評

11月26日、龍谷大学響都ホール校友会館にて、音楽ジャンルが違っても5団体が出演して開催。会場ロビーに展示した出演団体の「思い出の写真パネル展」も好評。当日の演奏は校友会HPから視聴いただけます。音楽性も高く聞きごたえのあるステージをぜひご視聴ください。エンディングの大合唱「あの素晴らしき愛をもう一度」(作曲：加藤和彦さん・龍谷大学出身)も音楽のすばらしさを感じてほしいです。



上杉 智英さん (02年文院了)

書跡の担当学芸員として貴重な文化財の収集・保管・展示や、調査研究・教育普及活動に励まれ、23年に開催された「親鸞聖人生誕850年特別展 親鸞生涯と名宝」では主担当を務め、展示を通じて11万人超の観覧者に親鸞聖人の生涯と教えを伝えられました。



巖水 法乗さん (74年法卒)

大阪拘置所の教諭として27年、篤志面接員として24年にわたり、刑務所で苦しむ多くの人に寄り添う宗教教誨実践をされています。迷妄の中にある人間同士として、仏様から見抜かれている私たちに仏の教えを取り次ぐ活動を続けておられます。

龍谷特別賞

教諭師、篤志面接員



龍谷賞贈呈式



ホームカミングデー

10月28日、瀬田キャンパス、11月4日、深草キャンパスでホームカミングデーを開催しました。今年はコロナが5類に移行し、龍谷、学文祭自体もほぼコロナ前の状態で開催。今年は卒業生だけでなく、ご家族、同伴者にも千円分の学生模範店利用券を配布したことが好評で、多くの卒業生が来学してくれました。いずれのキャンパスも若い世代の卒業生が多く、ファミリー参加も目立つようになりました。学生模範店の活気も戻り、それぞれのキャンパスをお楽しみいただきました。同日開催の「龍谷賞贈呈式」(深草キャンパス顕真館)にも多くの卒業生が来場。贈呈された卒業生を祝ってくださいました。

校友最前線

株式会社RE-SOCIAL 代表取締役

笠井 大輝さん (20年政策卒)



プロフィール 大阪府出身。入学後、社会課題に向きあうゼミのフィールドワークで獣害被害の現場を知り衝撃を受ける。3回生の時この問題解決のため3か月間、泊まり込みで猟師に弟子入り、捕獲、解体、精肉加工、販売まですべてを教わり、起業を決意。現在、多角的視点から鹿肉の100%流通を目指す会社を運営。

私たちの思い 京都府南部からお届けする鹿肉

23年10月、次代の京都ブランドとなり得る新たな担い手を発掘・表彰する「KYOTO Next Award」の記念すべき第1回目の最優秀賞を受賞されたベンチャー企業「株式会社RE-SOCIAL」の代表の笠井大輝さんは、同級生の江口和さん、山本海都さんと3人で在学中にこの会社を起業されました。

獣害問題を目の当たりにした学生時代 鹿や猪による被害は深刻で、農林水産省によると農業被害は150億円にのぼり、その被害は農作物だけでなく、里山の荒廃や農業意欲低下にもつながる全国各地での大きな課題です。学生時代のフィールドワークで知ったこの課題の解決方法は、鹿や猪を捕まえ、その死がい山の中の巨大な穴に毎日、捨てられていること。積みあがっているその光景を見た時に言葉が失い、その場から動けなくなりました。この社会課題に対してアクションを起こさないことにもどかしさを感じていた頃、ゼミ仲間の江口さん、山本君も同じ思いを感じていたことを知り、3人でこの課題解決のために何ができるのか、徹底的に話し合いました。それが今の事業のビジネスプランにつながりました。

起業は笠置町で 獣害被害課題を抱える色々な地域に話を聞きに行き、京都府笠置町では行政的には浮上しない見えない課題となっていることで民間企業の出番だと感じ、この町で起業することを決め、移住しました。緑もゆかりもない土地で、ジビエ事業を展開することはなかなか受け入れられませんでした。住

めら空家は、電気は通っていましたが、風呂、トイレ、キッチンもない状況で5か月暮らし、笠置町でできることは何でもして、アルバイトで食いつなぎました。そんな自分たちを、次第に地域住民の方々が受け入れてくださるようになり、猟友会のメンバーが精肉加工工場を手伝ってくださるようになりました。大切ないのちへの感謝の気持ち 捕らえられた大切な命の9割が廃棄されている課題。大切な命を次の命へつないでいくこと、美味しくいただく、余すことなく活用する。「自然への敬意と感謝の気持ち忘れず、本来あるべき人間と自然の関係性、命への感謝を、『食』を通して伝えていきたい」という思いから、野生鹿の生け捕り、養鹿、生体搬送、活け締め、解体処理、販売までを一貫して行っています。



NATURAL BAL MEAT UP https://tabelog.com/kyoto/A2601/A260101/26039588/ (JR 京都駅八条口から徒歩5分)

23年6月には、「NATURAL BAL MEAT UP」(京都市南区)をオープン。販売していた新鮮な鹿肉をレストランで実際に美味しくいただくお店をつくりました。 笠置町でジビエ事業を始めて4年がたち、笠置町では鹿獣害はなくなり、90%廃棄されていた大切な命を100%流通している状況を達



「愛知の名工」愛知県優秀技能者表彰の 野田 錦市さん (05年経営卒)

80年、愛知県生まれ。有限会社 野田菓子舗 代表取締役。第26回全国菓子大博覧会2013年において看板商品『いちご大福』が最高位賞名誉総裁賞を受賞。17年、菓子製造の分野において国家検定1級技能士に認定され、翌18年、あいち技の伝承士に認定。20年には厚生労働省ものづくりマイスターに認定。23年には、愛知のモノづくりを支える優秀な技能者の一人、「あいちの名工」愛知県優秀技能者として菓子技術者の中では最年少で表彰される。



宮中歌会始選者のおつじ たかひろ 大辻 隆弘さん (85年文院了)

60年、三重県生まれ。大学院時代にNHKの短歌番組をきっかけに作歌を始め、86年に未来短歌会へ入会し、岡井隆に師事した。23年4月、著書『樟の窓』が第15回小野市詩歌文学賞を受賞。現代歌人協会会員、現代歌人集会理事、日本文藝家協会会員、中部日本歌人会副委員長、一般社団法人未来短歌会理事長。23年7月1日付で宮中歌会始選者に就任され、24年1月に行われた宮中歌会始にて選者として活躍された。

校友短信

経営者登場

株式会社 大安
代表取締役社長
おおすみ やすし さん
大角 安史さん
(96年経済卒)

プロフィール
72年京都市生まれ。1902年から続く「京つけもの大安」の3代目社長。96年経済学部卒業後、第一勧業(現みずほ)銀行に入行、経営全般を学ぶ。00年大安入社。製造・営業部門担当後、04年取締役就任・14年社長就任、現在に至る。

自己肯定論から学んだ 伝統の次にあるもの



■学生時代から社会人へ
中学、高校と男子校でしたので、龍谷大学での共学の生活がとにかくまぶしく新鮮だったことを思い出します。テニスサークルに入り、楽しく過ごした1、2年生。いずれ「大安を継ぐ自分」を意識しながらも、敷かれたレールにそのまま乗るのではなく、いわゆる自分探しをしていました。周囲が就活で動き出す頃になり、就職について父親に相談したところ、「財務や経理が経験でき、様々な企業の社長さんと直にお会いできる仕事に就いてはどうか」とのアドバイスで、銀行に入行しました。

96年と言えば、バブルがはじけ、破綻する金融機関や会社が出始め、それまでのやり方は通用しなくなってきた頃です。「ノルマ」という言葉は禁止され「目標」という言葉に置き換えられました。有名無実化。目標はすべて達成しないと駄目

■大安に入社してから
銀行を退職した翌日には大安に入社しました。その頃の自分は疲れ切っていて、特に気持ちが悪くへとへとになっていました。でも社長の息子として入社する自

分が、社内のみなさんに不安な思いをかけてはいけない、自分のキャリアクターを変えて新しい環境に向かいました。もともとは静かにひとりでも過ごすことが好きでしたが、「明るく元気な自分」に努めよう。そうすると、余計にしんどくなつて、どんどん落ち込んでいきました。

そんな時にある方から、「自分を変えようと思うから苦しいのであって、ひとりの時間が好きな自分も自分でも明るく振舞うことができる自分も自分なものです。どちらも肯定したら、自分自身の幅が広がったということではないですか」と。こんな自分ではだめだ」と否定するからしんどくなるのであって、新しいことができる自分もいるのだとわかると、自分の幅が広がる大きな人間に成長できるのだと思えました。人の成長はスクラップアンドビルドではな

いのです。何かの礎に積み重ねるものだと思います。三代目として既にかたちのあるものを引き継ぐということへのプレッシャーもありました。入社してすぐに事務方で仕事を学び、3か月後には現場で実際に製造に携わり、10か月製造工程を学びました。

現場での体験は本当に貴重でした。例えば千枚漬。スライスされ流れてくるかぶらを素早く樽に入れ、塩をまんべんなく振る、またすぐに次のかぶらが流れてくる。ひと時も気が抜けず作業です。その後、3日ほど熟成させてから昆布と調味液で漬けるのですが、そのため一度重

ねて漬けた樽をひっくり返し、水分をきって中のかぶらを出して漬けかえま

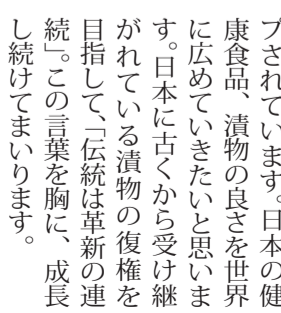
す。樽を引き抜くと通常は白い千枚漬の山ができません。ところが、私が下漬けたものを樽から出した時、千枚漬の山は見事に崩れ落ちました。原因は塩がまんべんなく振れておらず、かぶらが漬かっているところなのに、その部分が潰れてしまっていたことなのですが、そのような失敗を体験し、ひとつの工程の重要さを痛感し、手前味噌ながらわが社の熟練の職人たちの細やかで確実な仕事ぶりも実感しました。

■つけもの復権と発酵が拓く健康的な未来、漬物を作る工程で、必ず出てくる野菜の皮などは廃棄対象です。廃棄量はコロナ前の実績で年に193トン。千枚漬に使う聖護院かぶらは、内皮に固い繊維質の膜があり、1センチ程の厚さで皮を剥き、さらに上下の部分もカットされるの

また、最近「腸活」という言葉がよく使われるようになってきました。腸をきれいにして内側からきれいになると肌もきれいになる。それに役かっているのが乳酸菌を含んだ漬物です。乳酸菌は食物繊維がない

で、使える部分が少ない野菜です。廃棄物の一部は動物の餌として京都市動物園で引き取ってもらっています。季節商品のために受け入れてもらえません。そこで、このかぶらも含めた廃棄物を活かす方法はないかと研究してきた結果、かぶらを乳酸菌発酵させた独自のスキンケア発酵液を開発し、大安野菜のエキスをブレンドし、世界初の発酵化粧水が誕生しました。

「科学的な根拠とは関係なく、なんか体の調子が良い」と思いながら漬物を古くから食べ続けてきました。そんな先人の知恵である漬物を扱うことを誇りに思っていますし、更に発展した形で後世に伝えていきたいと考えています。日本の発酵食品は現在ヨーロッパなどでクローズアップされています。日本の健康食品、漬物の良さを世界に広めていきたいと思われています。日本に古くから受け継がれている漬物の復権を目指して、「伝統は革新の連続」。この言葉を胸に、成長し続けてまいります。



世界初の発酵化粧水「至貴」。

校友 Who's Who

八瀬造佛所
佛師

の だ
野田 康童さん
(04年文卒)

プロフィール
福島県出身。大学入学のため訪れた東寺講堂の仏像群を拝観し、仏像の持つ力に衝撃を受け、仏像彫刻の世界に入る。その後大仏師松久宗琳仏所に内弟子として入門。13年の修行後、独立。平成30年大仏師今村九十九師より佛師雅号「康童」を拜受。京都八瀬に「八瀬造佛所」を開所し仏像の制作、修復を手がける。



佛師の仕事は自分を表に出さない一生の修行

■仏像との出会い
大学受験の時に、地元や関東の大学に進学して同じ環境が続くよりも新しい環境に身を置きたいと考えていたこと、歴史が好きだったので京都の大学受験を決意。ご縁があったのが龍谷大学でした。合格して観光がてら訪れた東寺の講堂の仏像に出会った時の衝撃は今でも忘れられません。それが今の仕事の原点です。

もともと絵を描くことも好きだったので、大学入学後は仏像のデッサンに夢中になり、その流れで仏教をもっと知りたいと思うようになり、好きな龍谷大学の環境はありがたかったですね。

■佛師へのきつかけ
ある時立ち寄った書店で見つけたのが『仏像彫刻のすすめ(松久朋珠著)』

という一冊の本。この本で、佛師という仕事を知らず興味が覚えたが、残念ながらその著者はお亡くなりになっていました。そのような時、友人が三条御幸町に仏像をつくっているところがあると教えてくれ、すぐに訪ねたところ、なんとこの本の著者のご家族が継がれていた工房でした。工房の受付で、「弟子になりたい」といきなり頼みました。受付の女性には、「やめておきなさい」と言われたのですが、たまたま職人さんが通られたので、同じようをお願いすると、「じゃあちよつとやってみますか?」と。そのひと言がきっかけで、大学三回生の時からこの工房主催のカルチャー教室へ通うようになりました。

周りは就職活動の最中でしたが、私は一心に自宅

と工房で彫刻の日々。就職活動をひとつもせず卒業し、フリーターをしながら工房に通っていました。そんな日々が1年ほど続いた時、工房の仕事も増え、人が足りないこともあり、幸いなことにその工房に内弟子として入門することができたのです。

■学生時代に響いた言葉
今思い返すと龍谷大学に入学した時から、人の縁とタイミングに助けられています。学生時代にゼミの先生がおっしゃった、「中学高校と進学の準備、大学に入ったら就職の準備。社会人になったら結婚、出産、老後の準備。準備で終わる人生を送ってはいけませんよ。」この言葉に背中を押され、やりたいことをすべきだと気持ちになりました。この言葉と出会い、今の自分

につながつて佛師になることを決め、両親に報告に行った時のこと。サラリーマンの父親には「先の見えない仕事などどうなのか」と反対されるかと覚悟していましたが、自身が決めた仕事ということでも何も言わなかったのです。一方、母方の祖父が尺八職人だったので、こちらは応援してくれると想像していましたが、逆に反対されました。「芸術家なんて凄いなばかりの世界なのだからむずかしい」と。確かに不安はありましたが、自分で決めていた道です。この仕事はしたいという気持ちは変わらな

ねて漬けた樽をひっくり返し、水分をきって中のかぶらを出して漬けかえま

す。樽を引き抜くと通常は白い千枚漬の山ができません。ところが、私が下漬けたものを樽から出した時、千枚漬の山は見事に崩れ落ちました。原因は塩がまんべんなく振れておらず、かぶらが漬かっているところなのに、その部分が潰れてしまっていたことなのですが、そのような失敗を体験し、ひとつの工程の重要さを痛感し、手前味噌ながらわが社の熟練の職人たちの細やかで確実な仕事ぶりも実感しました。

■つけもの復権と発酵が拓く健康的な未来、漬物を作る工程で、必ず出てくる野菜の皮などは廃棄対象です。廃棄量はコロナ前の実績で年に193トン。千枚漬に使う聖護院かぶらは、内皮に固い繊維質の膜があり、1センチ程の厚さで皮を剥き、さらに上下の部分もカットされるの



野田さんが制作された准胝観音。

依頼を受けてから半年から一年かけて仕上げているものもあります。依頼された方のお気持ちを伺い、下絵を描き、迎え入れたい仏様のイメージを確認します。

一体の仏像の制作に時には数年の期間がかかることがあります。その期間の中で、人間の脳というのは自分に都合よくとらえてしまいます。無意識に自分の欲が形となって出てくる時があります。それを防ぐためにあえて時間を置き、時には仏像に興味がない人に見てもらって率直な意見を聞いたりしながら、客観的に向き合えるように修正します。

仏像が出来上がり依頼主に納め、開眼供養をしていただき仏様にな

て増えませんか。漬物にはその両方が入っています。特に京の三大漬物である、「しぼ漬」「すきき」には多くの乳酸菌があることが確認されています。また、ぬか漬にも多くに乳酸菌が含まれ、ぬか床には1g当たり1億個の乳酸菌があると知られています。日本人は科学的な根拠とは関係なく、「なんか体の調子が良い」と思いながら漬物を古くから食べ続けてきました。そんな先人の知恵である漬物を扱うことを誇りに思っていますし、更に発展した形で後世に伝えていきたいと考えています。日本の発酵食品は現在ヨーロッパなどでクローズアップされています。日本の健康食品、漬物の良さを世界に広めていきたいと思われています。日本に古くから受け継がれている漬物の復権を目指して、「伝統は革新の連続」。この言葉を胸に、成長し続けてまいります。

また、最近「腸活」という言葉がよく使われるようになってきました。腸をきれいにして内側からきれいになると肌もきれいになる。それに役かっているのが乳酸菌を含んだ漬物です。乳酸菌は食物繊維がない

で、使える部分が少ない野菜です。廃棄物の一部は動物の餌として京都市動物園で引き取ってもらっています。季節商品のために受け入れてもらえません。そこで、このかぶらも含めた廃棄物を活かす方法はないかと研究してきた結果、かぶらを乳酸菌発酵させた独自のスキンケア発酵液を開発し、大安野菜のエキスをブレンドし、世界初の発酵化粧水が誕生しました。

「科学的な根拠とは関係なく、なんか体の調子が良い」と思いながら漬物を古くから食べ続けてきました。そんな先人の知恵である漬物を扱うことを誇りに思っていますし、更に発展した形で後世に伝えていきたいと考えています。日本の発酵食品は現在ヨーロッパなどでクローズアップされています。日本の健康食品、漬物の良さを世界に広めていきたいと思われています。日本に古くから受け継がれている漬物の復権を目指して、「伝統は革新の連続」。この言葉を胸に、成長し続けてまいります。

り私のもとから離れます。依頼主の方々に喜んでくれた時は最も嬉しいと感じる瞬間です。

千年以上に渡り繋がってきた仏像造りの脈流の一端に今、自分がいます。長い年月をかけて大切にされてきた仏像造りの様式や心を次の歴史へと繋いでいく役割と責任も感じています。

芸術家でも職人でもない「佛師」という仕事。仏像をつくる技術だけではなく、その心を伝えていく佛師としての感謝と謙虚な心を忘れずに精進してまいります。

親鸞聖人誕生850年に際し、その教えを聞く 入澤学長「問わず語り」

ある日(23年10月10日)の学長法話より



イラスト 宗教部 小西智子

この人はどこが学びが浅いかということにきちんと指摘してフィードバックする。そういう教育法が強く打ち出されています。

この夏休みには4回生の学生さんたちと話す機会がありました。その中の数名が「龍谷大学に入ってから、4月・9月には履修登録をしますが、同じ科目を3回連続で落とされました。抽選に当たらなかったのですよ」というのです。

そうしたら別の学生も同じような体験をしているというのです。私が、「どうしてその科目を選択したのか」と聞いたら「楽勝科目なんです」と。オンラインであつたとしても、そのオンラインに出席していかなくても、単位がもらえるというのを盛んにいうのです。

資料はアップされているので、それを見なさいという指示があつたようですが、大学教育の世界が、今大きく変わろうとしており、学習者主体の教育ということが強く打ち出されています。

も、学友側の方が楽に単位が取れる、授業に出なくても単位がもらえることを理由に履修する。そして多くの学生がそれに殺到する。この姿勢は、やはりどこかおかしいと思わざるを得ません。大学での学びというのは、一体どういうものであるかというのを、最初から知らずして、この科目はそんなに勉強しなくていいから取ろうとか、噂になつていっているものに飛びつくような学び方はどこかおかしい。大学での学びとは、どういうものであるかというのを入学した

ときに私達はしっかりと学生さんに説明することが必要ではないかと強く思っているところです。学びとは自分の成長の糧になるもの。大学での学びは、高校までの学びと違います。卒業単位だけを取得すればよいというふうな気持ちで大学で学んでいるのはどこか虚しく響きます。学びというのは自分の成長の糧になるもの、そして教える側にしても教えることが学びであり、教える側も自分自身の言っていることが学生に届かなければならぬ、なぜ届かないのかを考える必要があるのです。

物を書かれています。地震学や火山学、防災といった専門書以外にも、学生さん達に本当に積極的に学んでもらうにはどうしたらいいか、というようなことが書かれています。時間があれば手に取ってみてください。その中で鎌田先生は、本当は勉強というのは楽しいことなのだ、未知の扉を開くことは楽しいことなのだ、努力することの心地よさに目覚めてほしいというのを強く主張されています。申し上げてきたように、学びというのは一生続くことです。また一生続けねばなりません。

私達はいつい目先のことに突き動かされて学びの本質というのを忘れていきます。そうあつてはならないところが大学というところだろうと思います。

入学式でいつも学生さんたちに、「私は皆さんを偏差値で測つたりはしません」と申し上げていまして、一過性の指標を後生大事に保ち続けると、自分は能力がないと思ひ込んでしまいがちです。受験も今大きく様変わりしつつあります。

高校から大学で本格的に学ぶということ、その学びの主体である学生さんの能力を伸ばしていく、そのことを意識した入試制度というものが、今各大学で取り沙汰されています。

このたび地震学、火山学専門家の京都大学の鎌田浩毅先生に龍谷大学客員教授に就任していただくことになりました。鎌田先生が『一生モノの勉強法』(ちくま文庫)という書

を受け止めなくては行かない。受け止めるために、私達は、広々とした寛大な心というものを養つておく必要があります。

「学仏大悲心」という教えを忘れてはならない。今日は皆様方に仏教の言葉をひとつだけお伝えします。それは、「学仏大悲心」という言葉です。学仏、学仏、悲心、悲心、慈悲の心、そして心です。

仏の大悲の心を学ぶ。これは中国の僧侶善導という方の書物に出てくる言葉です。

親鸞聖人が7人の高僧をあけて讀まされたが、その中の一人、善導という方のお言葉です。仏という存在、これは慈悲の心を持ち合わせ、私達が持っている優しさだとかそういうものをはるかに超えて、他者の安寧を願つている。そしてまた他者の苦しみ痛みというものを共感する。そういう心をもっている仏という存在。仏様が持っているその慈悲の心を学ぶ。私達は今の現代社会において、世の中には、苦しんでおられる方が沢山いるということ、それを学ばなくてはなりません。その方々に心を寄せる。自分さえよければいいというようなことではなく、いかに自分が自己中心的な存在であるかということ、仏様に照らして見ると、全国的に見れば仏教系大学といものはごくごく少数です。

「学仏大悲心」

海外で活躍する校友
関西フェルトファブリック(株)
三好 秀雄さん
(16年経営卒)



プロフィール
在学中にタイへ交換留学。新卒でベトナムの旅行会社に就職。2年間の海外経験を機に、知識を活かして「関西フェルトファブリック株式会社」で営業職としてベトナム駐在中。

も長年にわたつて伝統を培っています。その伝統の中身は何か。単なる科学技術文明の力を使つて、うまくそれらを使いこなすというだけの教育ではなく、人として生きていくには何が本当に大切なのか、ということ、問いかける教育、それを龍谷大学にあっては、連続と続けられてきました。

「学仏大悲心」という仏様の大悲の心、人の苦しみ、悲しみに共感するということ、私達は、忘れてはなりません。そして今それを仏教系大学として、親鸞聖人の教えを建学の精神とする大学として、このことを根底に置き、大学教育を推進していく必要があるのではないか、と強く思っています。

現在の仕事
私のキャリアはベトナムの旅行会社への新卒入社から始まりました。その後ベトナムでの青年海外協力隊の活動を経て、観光業のキャリアから現在の会社に中途入社しました。

ベトナム拠点10周年

1度は面接で不合格になった協力隊ですが、諦めず再度試験をうけて2回目の試験で合格できました。

海外で働くきっかけ
高校生の頃に見た青年海外協力隊のドキュメンタリーの影響を受け、元々海外での仕事に興味を持っていました。ベトナム現地でも活躍されている協力隊の方とお仕事したことがきっかけで、現地の方に寄り添い、人の役に立つ「青年海外協力隊」で働きたいと思ひ始めました。

協力隊活動は終わりましたが、ベトナムの役に立ちたいという気持ちは変わらず持っています。関西フェルトで日本のものづくりをベトナムで広め、国の発展と共に会社が発展できるように挑戦して行きたいです。



ベトナム拠点10周年

私たちのことを覚えていてくださったことが何よりも嬉しかったです。

式典を通して19年度卒業生も大事にされていたんだと実感し、龍谷大学を卒業して良かったと思いました。

赤松校友会会長の挨拶、「龍大は普段、控えめでまじめな大学と言われるけれど、やるときは大胆にやる」の言葉がぐっとときて、龍大、いい大学だなあと思いました。

やっと自分の中で区切りがついた感じがして、学生生活に思い残すことはないです。

念願の卒業式が、こんな素晴らしい場所で行われ、お世話になった先生や、友達にも会えて、おいしい料理やショーまで堪能して、学生時代の楽しい記憶がよみがえる素敵な時間でした。さすが龍谷大学です。

久しぶりの合掌礼拝、仏教の思想にも親しく触れることができ、悩んだり立ち止まったりしたときには、仏教の視点で考えてみようと思う卒業式でした。

念珠を持参しての卒業式典に懐かしさを感じました。自然に合掌礼拝し、学歌を歌う。私もいつの間にか龍大の色に染まっていたんですね。

厳かな雰囲気の出に残る卒業式でした。これを企画運営してくださったすべての方のご苦労に心から感謝いたします。

前例のないことできつと大変だったと思いますが、式典でのお話を聞いてくださったんだろなと思いましたが、他の大学が結局もう卒業式は行わないままなのに、3年以上経ってでも忘れずに実現してくださり、本当に有言実行してくれる素敵な学校だなと思えました。

3年前の約束

2019年度(2020年3月)卒業生・修了生対象「卒業式・修了式」「校友会新入会員歓迎祝賀会」参加者の声

龍大らしい式典、懐かしかった！

仏教音楽の式典。龍谷大学の落ち着きを感じる事ができたのが嬉しかったです。学長からのお話を聞いて、コロナ禍で社会人になった私たちここまで頑張ったな、これからも頑張ろう、という気持ちになりました。

卒業式ができず袴を着ることができなかつたので、残念に思っておりますが、変わらぬものもあつたが、それを上回る楽しく良い時間を過ごさせていただきました。

遠方からの参加でしたが、参加してよかつたと感じられる内容でした。

卒業式、えっ!! 会場ここ?? めっちゃ嬉しい! 龍大、最高!

念願の卒業式が、こんな素晴らしい場所で行われ、お世話になった先生や、友達にも会えて、おいしい料理やショーまで堪能して、学生時代の楽しい記憶がよみがえる素敵な時間でした。さすが龍谷大学です。

楽しかったのはもちろんですが、当時よりも学長の祝辞や言葉が社会人になることで数年後に集まるのもいいことですね。思い出したり、言葉が沁みまじりました。こうやって数年後に集まるのもいいことですね。

この卒業式で、社会人として一生懸命働いて、誰かの役に立つ、社会に役立つことが、龍大への恩返しだと思ひ、明日から仕事に頑張ります。

「3年前の約束が果たせて」の式辞に感動。有言実行してくれて卒業生として本当に嬉しかったです。

学長にお会いできたこと、お祝いの言葉をいただけただけなのが嬉しかったです。

ようやく龍谷大学を卒業できたという実感がわき、気持ちもすっきりしました。

ひたすら懐かしい思いに浸っていました。恩師の先生にお会いしていませんでしたら、自分はこの仕事を見つけていなかったと思います。感謝しかありません。有意義な4年間をありがとうございました。

私たち卒業生へのエールを感じ、今後仕事も頑張ろうと思えました。

ありがとうございました。龍大でよかつたです。

学生時代に参加させていただいていた報恩講を思い出しました。龍谷大学の卒業生らしくいたいという気持ちになりました。

約4年ぶりに同級生に会えたので嬉しかったです。コロナ禍で菌切れが悪い中、卒業という形になってしまい、同級生とも集まるきっかけがなかったのですが、今回の再会をきっかけにご飯へ行く約束をしたり、旅行に行く約束をしたり、これまで会っていなかった分を埋める勢いで同級生との関係性がさらに深くなりました。とっても楽しい時間です。本当に参加してよかつたと思っております。

「結婚おめでとうございます」 校友会会長、学長を祝福をお願いします。お申し込みは、校友会事務局まで。 氏名 卒年 蒞郷 時良 17 政策 式月日 11月4日

煩惱とクリエイティビティ トークイベント 12月2日、株式会社CAMPFIREの 家入一真さんをゲストにお招きし、龍谷大学入澤崇学長にナビゲーターを務めていただいたトークイベントを開催しました。人生のミッションを、「居場所をつくり、誰しもが声をあげられる世界をつくる」ことを掲げられた背景に、歩んでこられた人生の中での体験、そして煩惱を具体的に挙げながらのお話に引き込まれるトークイベントとなりました。 今後の活動は、公式X、校友会HPで

ポッドキャスト(ラジオ番組) オンデマンド配信 龍谷大学の現役の学生さんを中心にポッドキャストの配信をしています。「煩惱とクリエイティビティ」に興味を持った学生さんが自ら話し合い、企画、収録、編集を手掛けています。 2月17日にはゲストに水野良樹さん(いきものがかり、HIROBA 主宰)をお招きして、トークイベントを開催しました。このイベントはオンデマンド配信もしています。イベントによって配信期間が異なります。 公式X



9月16日、創部50周年記念祝賀会を、京都東急ホテルにて開催しました。23年は前期西日本大会で創部初となる団体優勝、後期西日本大会では個人戦優勝を飾る、居合道部にとってはまさに節目の年となりました。団体戦では、今まではベスト4の壁が厚く、苦戦を強いられていたのですが、部員一丸となって臨んだ結

果、決勝に進むことができ、現役部員約20名と強豪の各大学よりも人数が少なく、また、コロナ禍で体育館や普段の稽古場所が使用できない制約の中で大会であったため、学生たちは「今年こそは!」と決死の覚悟で挑み創部50周年に花を添えてくれました。祝賀会に先立ち私たちの流派である無双直伝英信流を後世に残してくださいと歴代の先生方に哀悼の意を表し、先生方、そして50年もの歳月をかけて私たちに繋いでくださった先輩方に深く感謝し心をこめて演武を行いました。更なる60周年に向けて次の目標である全日本個人・団体優勝を目標に、日々精進していきたいと思っています。

10月22日、龍谷大学深草キャンパス成就館「Cafe Ryukoku &」にて写真部創部90周年OG・OG会記念式典を開催。OG会記念式典を開催。遠くは千葉・埼玉・神奈川・福岡・愛知県などからも駆けつけていただき総勢33名で懇親を深める事ができました。



12月10日、響都ホールに於いて「龍吟会創部60周年記念吟詠発表大会」を、校友会をはじめとする多くの方々に支えられ、盛大に開催しました。令和元年に再興して、5回目を迎えた「発表大会」は、「吟詠」だけでなく、「中国舞踊」や「親鸞聖人の和讃や歎異抄のことばを吟じる」、そして、新たに「剣舞」にも取り組みました。他大学詩吟部、地域連携による他流派の先生方、OB吟詠等と、落語研究会の賛助出演もいただき、多彩なプログラムでご観覧の方々に喜んでいただき創部60周年の大会にふさわしいものになりました。



11月18日、成就館メイホールにおいて記念演武会を開催し、日ごろ研鑽された演武が披露されました。その後、成就館

温かい会となりました。校友会をはじめ支えてくださった関係各位に深謝いたします。

- 〈文学部〉 入澤 崇 ※学長職の任期は25年3月31日まで
〈経済学部〉 細田 信輔
〈法学部〉 赤池 一将 上垣 豊
金子 眞也 川角 由和 神吉 正三 吉岡 祥充
〈先端理工学部〉 金子 康智 外村 佳伸
〈社会学部〉 金子 龍太郎
〈国際学部〉 サルズジョーナイサク
〈農学部〉 樋口 博也

前期西日本大会で創部初の優勝 創部50周年 居合道部

写真部OB・OG会の 創部90周年記念式典を開催

龍吟会創部60周年 記念吟詠発表大会を開催

体育局合気道部 創部60周年記念式典を開催

今春定年退職される 先生方 2024年3月31日

経済学部同窓会 第8回ビジネスミーティングを実施しました
11月3日、第8回ビジネス・ミーティングを実施し、龍谷大学客員教授、事業構想大学院大学事業構想研究所客員教授の原尻淳一氏（Marketing Generator Harajiri Marketing Design 代表取締役）に「未来型キャリアデザイン～『人生100年時代』のキャリア戦略を考える～」と題して、講演していただきました。第二部では、パネルディスカッションを在生も登壇し5名のパネリストで討論を行い、約120名の同窓生・学生が参加しました。会の途中には龍谷大学OBの日本一バリスタがふるまうコーヒーを頂き、4年ぶりに実施された懇親会も大いに盛り上がりました。

経営学部同窓会 4年ぶりの卒業生の集い
11月18日、ホテルグランヴィア京都にて「卒業生の集い」を開催しました。会場には、再会を待ち侘びた1期生から20代前半の若い方、また東京や福岡からもご参加くださいました。オープニングは長谷川経営学部長「経営学部の現況と新設の商学科について」のご講演。懇親会では、コース料理をいただきながら、吹奏楽部の金管5重奏の演奏に酔いしれました。大抽選会では、久しぶりにたくさんの笑顔が戻ってきました。コロナ禍ですべての行事が中止となりましたが、皆様と笑顔で再開できたことに感謝しています。これからも「繋がっておこう!きついつか支えになります」を理念に活動をしていく所存です。

法学部同窓会 広島市で移動法律相談を実施
9月24日(日)、広島市で移動法律相談を開催しました。この事業は学生が、教授と共に学外で法律相談を行い、研鑽、地域貢献するというを目的に法学部設立当時から継続して実施し、同窓会が支援しています。今回は法学部同窓会50周年記念事業の一環として、16年以來の宿泊を伴う開催となりました。
法学部同窓会設立50周年記念パーティー開催
■日程:2024年11月16日(土)
■場所:ホテルニューオータニ大阪
※詳細は法学部同窓会のHP、LINE、FBにて告知。

社会学部同窓会 社会学部同窓会設立30周年記念事業のお知らせ
24年7月13日(土)に、瀬田キャンパスにて社会学部同窓会設立30周年記念事業を開催予定です。25年4月の深草キャンパスへの移転の前に、同窓生の皆さまと瀬田キャンパスでお会いする機会がもてればと思います。詳細は右のQRコードからご確認ください。

政策学部同窓会
11月4日、成就館1FのCafe Ryukoku &にて、政策学部同窓会ホームカミングデー2023を対面で開催。1期生から9期生までの卒業生や教職員、またスタッフとして現役生も含めて勢揃いしました。政策学部同窓会設立10周年を迎える25年に実現してみたいことや10年後の政策学部の理想の姿についてざっくばらんにアイデアを出し合い、最後はグループごとに発表されました。歓談時間には、懐かしい顔ぶれとともに様々な思い出話に花が咲き、チーム政策を感じる時間となりました。政策学部同窓会では、設立10周年に向けて今後も様々なイベントを企画していきます。

先端理工学部同窓会
先端理工学部1期生卒業に伴い、24年3月15日付で「理工学部同窓会」から「先端理工学部同窓会」に名称を変更します!

支部の活動報告

鹿児島支部

40周年記念事業開催

9月9日、本願寺鹿児島別院・本堂にて、設立40周年記念事業を2部構成で開催しました。

第一部では、「龍谷大学心の講座」の地方版として入澤崇学長より、「自省利他と仏教SDGs」をテーマにご講演をいただき、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsと「撰取不捨」という仏教の考え方に共通点を見いだし、他者のために尽力する大切さを説いていただきました。



岐阜支部

30周年記念事業開催

10月22日、本願寺岐阜別院・本堂にて、設立30周年記念事業を3部構成で開催しました。

記念式典に続く第二部では、入澤崇学長に「龍谷大学心の講座」人生の道しるべー豊かな心が育まれる生き方とはーと題してご講演をいただき、龍谷大学の仏教SDGsの取り組みから豊かな心の

兵庫支部

15周年記念事業開催

10月7日、姫路キヤスパホールにて、設立15周年記念事業を2部構成で開催しました。

第一部では、龍谷大学OBの僧侶の皆さまによる雅楽演奏会を開催。優美な音色に酔いしれるひと時でした。

石川支部

10周年記念式典開催

9月16日、総会、設立10周年記念式典に先立ち、「龍谷大学心の講座」の一環として、住まい方アドバイザーの近藤典子先生に、「終活からの復活」という演題で講演していただきました。

記念式典では、支部立ち上げ時の初代支部長と

学先端理工学部の道元徹心先生に「中国・五台山から伝承されたお念仏」と題してご講演いただきました。初の公開講座でしたが、多くのご参加をいただき有意義な周年事業となりました。

(支部長 土橋二郎)

初代事務局長に、校友会会長名の感謝状を授与しました。懇親会では、話も弾みこの10年を振り返る貴重な機会となりました。途中でサクソフオンの演奏も入り、和やかな雰囲気を作り出すことができた。最後は学歌を共に歌い、大団円のうちに閉会となりました。

(支部長 松浦顕雄)

進呈されました。他県から嫁いで来られたという卒業生の参加もあり、校友の輪が広がりました。嬉しく思っています。ますます元気な校友会山口県支部であるように、これからも支部の皆さん、事務局、龍谷小町それぞれが連携していききたいと思えます。

(副支部長 松田祥子)

よりも多くいただきました。以前の音楽祭を知っている来場者の方から、「今回はさらに統一感があってよかった」という感想もいただきました。

(支部長 辻田護司)

今回の事業で一千人近くの会員に参加意識確認等がとれましたので、今後の支部活動につなげていきたいと思えます。

山梨支部 & 山口龍谷小町 梨狩りピクニック開催

大坂・中央支部 龍谷ミュージックフェスタ in 2023 開催

宮崎支部 龍谷小町 本年度は総会・研究会 (7月29日)に加え、研究会(2月17日)を実施しました。

岡山支部 岡井隆の百首

大辻隆弘(85年文院了) 四六変形判218頁ふらんす堂 1,700円+税

当日の天気は小雨で不安定でしたが、参加者全員が梨狩りを楽しむことができました。お昼は旬の食材を使った身体に優しい地球食卓さんのお弁当でピクニック。その後の紙ひこうき大会では、飛ばす側も応援する側も一体となって大盛り上がり。優勝者には桑羽支部長から梨の詰め合わせが

悲しい報せを受けてつらいと心情を述べた後「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。これはこれ災難をのがるる妙法にて候」と、ちよつと信じがたいような言葉を記していました。この手紙の受け取り方は色々ありますが、元日は起こった石川県および周辺地域の震災の被災者の方々に、心からお見舞い申し上げます。

7月には福山大学人間文化学部教授・本学法学部客員教授中島学氏(元札幌矯正管区長から「矯正・保護から更生支援」と題する御講演をいただきました。また2月には、

宮崎支部 龍谷小町 お寺で曼荼羅ドット体験会

山本浄邦(97年文卒) 新書判256頁 ちくま新書 860円+税

川越宗一 川越宗一(第162回直木賞受賞、20年度龍谷特別賞受賞) 四六判上製448頁PHP研究所 2,200円+税

今も使える 仏教用語 「あきらめる」



「他の発明家の弱点は、ほんの一つか二つの実験をやめてしまうことだ。わたしは自分が求めるものを手に入れるまで決して諦めない」

この「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

上避けられないこととして「四苦」や「八苦」を説くのですが、代表的なのは老・病・死や愛別離苦(愛する人との別れ)でしょう。しかしながら、「避けられない」ことがなぜ「苦しみ」なのでしょう。

「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

「あきらめる」という言葉は、今では「望みを断念する」という意味でおおかた理解されますが、本来は「明らかに見る」という意味をもっていました。どちらの意味も日本語に残っています

仏教に学ぶ

西国三十三所と世界の巡礼

日本最古の巡礼街道である西国三十三所の札所会は、平成三十年に草創一三〇〇年の大きな節目を迎えました。これは養老二(718)年に、奈良・長谷寺の御開山として知られる徳道上人が冥途(死後の旅)の途中で閻魔大王のご託宣をいただいて起請文と三十三の御宝印を授かり、現世に戻られたという寺社縁起に由来します。徳道上人は御宝印に従い、三十三所の霊場を定めた観音信仰を広めようとしたが、世間に信じてもらえなかったため機が熟すのを待つこととし、御宝

印を中山寺の石櫃に納めました。それから約二七〇年後、花山法皇が紀州国の那智山で参籠していた折、熊野権現が姿を現し、徳道上人が定めた三十三の観音霊場を再興するよう神託を授けられたと伝えられています。花山法皇は中山寺で御宝印を探し出し、播磨の書写山圓教寺の性空上人の勧めにより、河内の石川寺の仏眼上人を先達とし、三十三所霊場を巡礼したことから、やがて人々に広まったという伝説的な寺社縁起が数多くあります。そこで、西国札所会では、徳道上人を

観音巡礼の始祖とし、花山法皇を中興の祖としています。「巡礼」という言葉が最初に出てくる日本人の著作は、平安初期の入唐求法僧・慈覚大師円仁の『入唐求法巡礼行記』です。石川先生によれば、唐代の敦煌文書では、「巡礼」は「巡歴」・「遊歴」・「遍礼」などとともに聖地、霊蹟、諸寺院をめぐる行為を意味していました。平安中期に編纂された仏教説話『法華験紀』には「日本国の中の一の霊しき所に巡礼して、」処々の霊験の勝地を巡礼して」とあり、巡礼は

真言宗中山寺派 管長
大本山 中山寺 長老
いま じょうえん
今井 浄圓



プロフィール

57年兵庫県生まれ。龍谷大学大学院文学研究科(仏教学)博士課程修了。種智院大学特任教授、大本山中山寺長老、善通寺教学振興会研究員、「密教学、聖地、巡礼、観音信仰、仏教美術」をキーワードに研究を続ける。

あきらかに多くの聖地を巡歴する行為をさして使われています。従って、特定の聖地をお参りする「伊勢参宮」「熊野詣」「善光寺まいり」「金比羅まいり」などは、巡礼とは呼ばれていません。

宗教学者の星野先生は、「巡礼は居住地である日常空間、俗なる空間を一時離脱して非日常的な空間、聖なる空間に入り、そこで聖なるものに接近し、接触し、その後再びもとの日常空間、俗なる空間に復帰する行動である。すなわち巡礼とは、日常生活の空間と非日常生活の空間との往復運動である」と定義されています。また、田中先生は著書で、「巡礼には、巡礼の対象・目的となる聖地(霊場や巡礼地)、聖地に向かつて巡礼行為を行う巡礼者、巡礼者が通行する経路である巡礼道・巡礼路の三大要素がないと巡礼という宗教行為は成り立たない」と述べています。

等)、名刹・古刹・神祠観音、薬師、阿弥陀など、神仏にゆかりのあるもの)、高僧・聖人・殉教者ゆかりの地(弘法大師、法然上人、親鸞聖人など、聖者ゆかりの地)などの条件がありま

また、通過儀礼は、旧状態から分離したものの未だ新状態を得ていない移行、新状態に合入する再統合の段階という三段階があるが、これは俗なる共同体から出発し、聖なるものに触れ、また俗なる共同体に帰ってくる巡礼と似ていると指摘しています。

昔から「人生は旅である」という死生観があり、松尾芭蕉の『奥の細道』は「月日は百代の過客にして、行きかう年もまた旅人なり」と始まります。現代人の感覚では旅は空間での移動に過ぎないと思いが、芭蕉は時間も旅だと述べています。これはまさしく諸行無常であり、人は「寂静軒」という茶室に

はこの世にやって来る時、時間も空間も旅してきたのです。あの世と呼ばれる世界から母胎に宿つてこの世にあらわれ、そして亡くなるまでの期間も旅なのだということ。あ

人生もそういった意味では非常に巡礼に近いものではないかと思えます。何と云っても人生最大の節目は死ですから、日本人が古代からつづけてきた「人生は旅である」という死生観を理解できるのである。あ

巡礼の旅姿に他なりません。死が恐ろしいということとは最終的な消滅であり、愛する家族や友人たちと永久の別れであると考え

世界は旅であるという意識は、日本人にとって死とは時間の旅の一つの過程に過ぎず、まして死は彼岸へ旅をするだけなのだから悲しくも恐ろしくもない、ただ向こうの世界に行くというイメージを多くの方が持つておられたのではないかと思えます。

JR湖西線小野駅から山手に徒歩10分。琵琶湖を望む閑静な住宅街にあるお店は、ご近所の住宅に溶け込む外観で、お店のプレートがなければレストランとは思えない門構えです。



校友のお店
ハウスレストラン

田中 五感で楽しむ
ハウスレストラン

ちよみ 千代美さん
たなか 田中 (77年文卒)

もの作りが大好きで、日本画も描いているという田中さん。特に具体的な夢を持っていたわけではなく、いろいろなか

ともあるそうです。料理について特にどこかで修行をしたのではなく、自分の作りたいもの

を作り提供したい。そして飲食店営業の許可を取得。食材はその時季の地元のものを中心に地産地消で選ばれています。

色鮮やかな器と料理人で担当しております。今年で41年目に入り、気持ちのゆとりもでき、楽しんで食材と対話ができるようになり、新しいメニュー、器使いも日々

おっしゃっていました。長時間の立ち仕事は体力勝負。ジムに通って健康にも心がけているそうです。

茶道の懐しの世界が田中さんの手によって今様

ハウスレストラン 田中
滋賀県大津市水明2丁目5の6
(JR湖西線各駅停車で小野駅下車徒歩10分、湖西道路真野インターより車で5分)
TEL 077-594-3468
営業時間 12:00~(月曜日~土曜日)
インスタグラム houserestaurant_tanaka

編集後記
年が改まり、今年こそは穏やかな1年であってほしい。と願うも、新年を迎えた途端、能登半島地震が発生し、救助に向かう海保の飛行機とJAL機が接触事故を起こし羽田空港は大パニックとなつてしまいました。結局今年も、ある種の覚悟をもつて日々取り組まないとはいけな

